

私たちの奨学制度の根幹を守るために考えてください

インドネシアには、『子どもたちの学習の権利を絶対に保障する』という意味の義務教育制度はありません。C.P.I.とPPKIJは、だからこそ、貧困家庭の優秀な子どもたちに手を差し伸べてきました。しかし、2003年度学年期から、政府の教育制度の改悪が行われ、状況は厳しくなっています。小中高の入学金が必要なのは相変わらずですが、ジャカルタの国立中学校の授業料は月80,000Rpに、国立高等学校の授業料は月125,000Rpになりました。地方では若干安いですが、それでも以前に比べ2倍の感じです。C.P.I.からの奨学金で賄っていた子どもたちへの授業料補助は今のままでは、貧しい家庭の子どもた

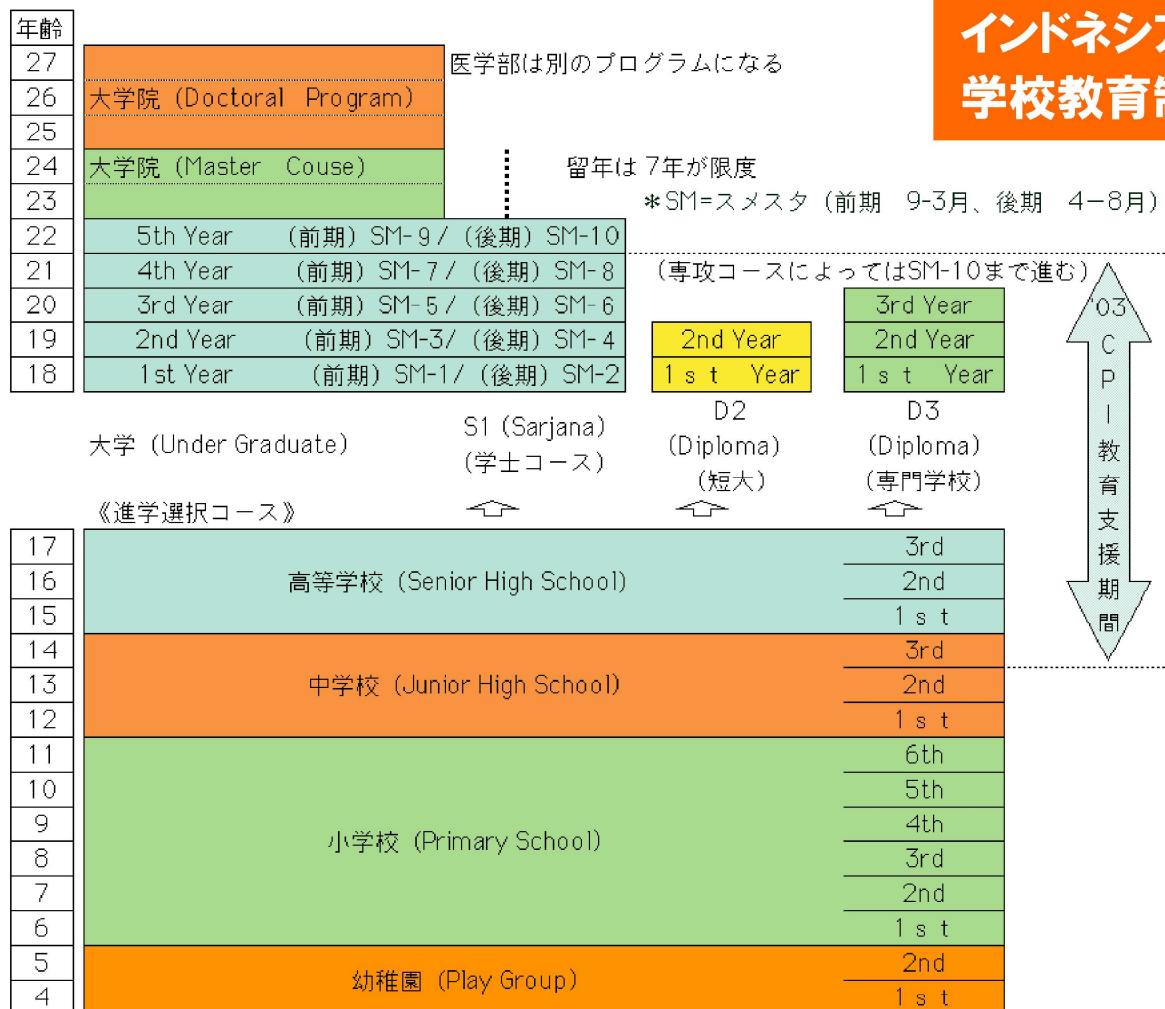
ちには足りません。根幹的な課題です。

また、国立大学生への支援は二年生までは必要ですが、三年生以降にも継続しますと支援資金が圧迫され、新たな中学生を選考できなくなることがはつきりしています(里親さんが、増えれば解決できますが)。

そこで、C.P.I.-PPKIJの両理事会では、2005年度学年期からこの問題の解決をするために、里親資金をすべて子どもたちの学費援助にまわし、大学3年生以上の自立プロジェクトをつくろうと、大学生を含めた討議を重ねています。

(文中の1Rp(ルピア)は約0.013円です)

インドネシア 学校教育制度



ジョグジャからの便り

大学生・教育里子
たちからの
緊急レポートです

ジョグジャカルタ地域の活動レポート

昨年から中学・高校の学費がとても高くなりました。私たち大学生はC.P.I.とPPKIJから、中学・高校生よりも優遇された奨学金を援助して戴いてきましたが、これからは中学・高校生への援助を増やす必要があることが解ってきました。昨年、C.P.I.の理事さんたちが来られて、私たち大学生と真剣な討議が行われましたから。

そこで、私たちは自分の力で少しでも里親さんに心配をかけないようにしなければいけないと思いました。しかし、それは大変難しいことです。アルバイトをしたけれども、仕事はありません。今、自力で出来ることを、みんなで考えています。後輩たちへの無料学習塾も続けながら、私たちの学費を得るためにはどうしたらいいかということです。

コンピューターシステムの塾もひとつのアイデアです。学習塾も考えています。これらの指導は、大学の先生でもあるスティクノ先生の指導を受けています。日曜日に集会を開いて、スティクノ先生の指導を受け、活動の計画を話し合います。

1. ジョグジャカルタでは、卒業生のグループと現役の里子達による新しい組織が再編成され、次のプログラムに取り組んでいます。
 - a. 高校と中学校の生徒の交流により、中学生の目標意識を高める。
 - b. 英語と日本語の学習コースを、将来の学習塾講師職業の習得を兼ねて行う。
 - c. コンピューターシステムの学習コースを、将来の学習塾講師職業の習得を兼ねて行う。
2. “PPKIJ LAUNDRY訓練プログラム”という自立支援を得るプロジェクトを開始しました。ジョグジャカルタにあるサンティカホテルでの洗濯とドライクリーニングの仕事に参加するプログラムです。
3. 自ら経営を行える能力を身に着け、企業家になるための訓練をしています。
4. スティクノ先生は、市内にあるグラメディア書店とつながりが強いので、教育里子たちはこの書店で開かれる教育プログラムのイベントに参加する機会を戴いています。

私たちは、未来を信じて頑張っています。
どうかこれからも支援をお願いします。



エリア集会所で真剣に話し合う里子たち(マラン)

(補足)このテーマについて各エリアで討議されています
(編集委員会)



厳しい日常を忘れて、里親交流を楽しむジョグジャ・ローカルの里子たち(ボロブドゥールにて)

目が見えなくたって、社会で働く！

★夢を支える多彩な能力★★スマルディ君



スマルディ君は障害を持って生まれました。生まれながらの盲目なのです。しかし、彼は目が見えないからといって希望を失うことはなく、苦闘しながらも良い方向に持っていくように努力しました。そして素晴らしいことに、彼は学校の主席です。非常に賢く、勉強に熱心なのです。彼は校内のポエムのコンテストで優勝しました。歌もとても上手に歌い、聖歌隊のグループに入っています。ハンディはあって驚くべき彼の才能は発揮されました。

彼の趣味は詩を書くことと、歌を歌うことと旅行をすることです。

スマルディ君は今高校3年生です。彼はジョグジャカルタ市内のパラング・トリティス通りに住んでいます。そこで他の盲目の生徒たちと寮で暮らしています。この寮で彼らは普通の人と同じように生活しています。彼らは強い自信を持っているので劣等感や不便さを感じることはありません。彼らは働く手があって、歩く足があって、考える頭があるから他の人と同じように働くのだと言います。彼は成功して両親に恩返ししたいと思っています。スマルディ君は「PPKIJとCPIのおかげで里親さんから奨学金の援助を受けることができてとても幸せです。決

して日本の里親を失望させません。私のような生徒が援助してもらうことは本当に素晴らしい名誉です。ありがとうございます」と、言っています。

学校の先生も、「彼のような生徒こそ社会で有意義な活動をする人材です。他の生徒からも慕われ、いつも明るい性格は他の生徒のお手本的存在です。C.P.I.の援助も彼の心を支えているのでしょうか」とC.P.I.の教育支援に感謝していました。

(注)SUMARDI FC. No. 3880

学校: SMU Pembangunan (= “Developmet” 高校)

(取材: ジョグジャカルタ・センター K生)

スマルディ君の詩の作品を次頁で紹介します。



PPKIJエリア集会で発表するスマルディ君

PPKIJ委員会とCPI日本のみなさまへ

私はジャカルタの私立タマンシスワ中学校＊の理事のメンバーです。私たちの学生のために、PPKIJと日本のC.P.I.の皆さんのが奨学金を支援してくださっていることに、深く感謝します。学生たちがより明るい未来を得るために、教育のニーズを考え、非常に有用な方法で支援していただいています。

C.P.I.の皆さんによって、我々の学生たちが如何に有用な資金補助を得ているかを、知ってもらいたいと思います。現在も、そして今後も私たちは、皆様からの支援を必要とするでしょう。我々の団体と我々のすべての学生のために、皆さんに感謝の意を送ります。そして我々は将来タマンシスワとPPKIJ本部とC.P.I.日本との間のより親密な関係を持ち続けることを希望します。

誠実にあなたの下に感謝をこめて

Jakarta Ki Hendro Widodo . S. E



タマンシスワ中学校: 独立前からある寺小屋的な学校が前進で、独立後の教育の基盤となった私立の学校。“貧困者にも教育を”的精神が今も生きている。PPKIJの共同設立者M.SAID基金もこの教育思想の中から生まれた。全土に2000校以上あり、現在のところ国立よりも授業料は安い。

ああ、青年たちよ

スマルディ作 (訳・編者 黒田、山川、小西)

ああ、我が愛するインドネシアよ！
一億人もの青年たちが、
その大地に暮らしている！
たくさんの民族がここに集い、
ことば、文化、習慣の違う人々がいることに
よろこびの顔がみえていたのに。
いま、老いたひとたちは時々目頭をおさえ、
痛ましい苦渋に満ちた顔をしている。
それは決まって、若い世代の行動を見たときだ。

おお、青年たちよ、
インドネシアは今こそあなたたちの手を必要としているのに、
あなたたちの肩にこそ重い荷物を乗せることができるので、
おお、青年たちよ、
あなたたちは、この国の苦渋を知っているのか。

おお、青年たちよ、
あなたたちの耳は、あの呼び声を聞こうとしているか、
あなたたちの心の扉は開かれているのか。

おお、青年たちよ、
この今まで、この国の運命(さだめ)は決まってしまうのか、
もし、あなたたちが気楽な日々を送るだけなら、
あなたたちが麻薬の誘いにのっていくなら…、
それで…、そのようにしていく行く末に、
あなたたちは何が得られるというのか。

明日のぼくたちのために、
信じられる何かを手にしよう、立ち上がろう。
悔いることのない大人の日を迎えるなら。
人生の終わりを、輝かしく迎えるためにも。



私の学校には、二人のC.P.I. 奨学生がいます。ヘニング ヌグロー君（里子No. 3875）と スリ ヴィアンタリさん（里子No. 4138）です。PPKIJと日本のCPIの皆さんに、特にこの二人に援助してくださっている里親に深く感謝します。

2人は、大変勉強熱心です。ヘニング ヌグロー君は高校2年生で、スリ ヴィアンタリさんは3年生です。スリ ヴィアンタリさんは2004年の6月に最終テストがあるので彼女はもっと頑張るでしょう。

私はこの奨学制度が、生徒たちが大学でより高度な教育を受けることができるよう、彼らが夢をかなえるために続けられることを望んでいます。何といってもこの制度は生徒たちに大きな希望を与えてくれます。恵まれない環境の下で、

自分には“ほど遠い夢”だった「大学」で勉強できる希望が持てたのですから。彼らは学校の中でも、誰からも慕われ、どんな行事をするときでもいつも中心的な存在です。彼らが社会で働いてくれるのを楽しみにしています。どうか、支援を継続してください。そして、彼らの成長を楽しみにしてください。C.P.I. の力によって、わが国の多くの若者に夢を与えてくださることを祈っています。

ありがとうございました。

ジョグジャカルタ
SMU タマン学園
スジエング スバギョ校長

《前ページからの続き》

世界的レベルのボゴール農業大学

ボゴール BOGOR

1. ボゴール農業大学とは

この大学は、1940年にオランダ政府によって設立された高等農業教育機関が前身です。1947年にインドネシア大学との間で調整が行われ、1963年9月1日の高等教育&科学大臣令92/1963と1965年の大統領令279/1965によってボゴール農業大学(Bogor Agriculture Institute=IPB)となったのです。当初IPBは、農学科、獣医学科、水産学科、増殖学科、林産学科がありました。それらは1964年に農業技術局として統括されることとなりました。1975年には、これらは卒業後プログラム(S-2 program)を始めました。数学&科学局は1981年に確立されました。

現在はIPBは独自の完全なる教育&研究施設をもち、1267名の教師たちがおります。うち865名は国内あるいは海外の著名な大学または研究所の大院または博士課程を卒業しております。早期にこうした体制を確立したことによって、IPBは分析・論理・問題解決・科学的コミュニケーションといった能力を学生につけさせ、グローバリゼーション時代の様々な仕事分野において彼ら自身向上させることができるようにしています。また、IPBでは、プロ根性、社会的敏感さ、環境認識力、起業精神能力と同時に、気高いモラルをもつように仕向けています。

2. 入学システム

ボゴール農業大学(IPB)の新入生登録と入学のプロセスは IPB (PPMB-IPB)の新入生入学委員会によって管理されます。委員会はまず、4つの道を示します。うち3つは selection invitation track (USMIと呼ばれる=推薦入学)の道で、International and regional achievement (国際研究/国内研究)、Performance level track (PIN=研究種類)、Courier of area scholarship track (BUD=奨学金) を選ぶのです。もうひとつは、Ordinary new student test (SPMB=普通入学テスト)です。USMI(推薦入学)は、IPBから指名を受けた高校からのみ行われます。研究種類の選択は、高校卒業生がIPBに席を置くための申し込みであって、彼らは国内レベルの、例えば青年科学活動(KIRと呼ばれる)で申し込むか、あるいは国際レベルの、たとえばIMOとかIFOとかIKOのようなものを申し込むわけです。BUDはどういうことかといいますと、州政府の郡とか市で彼らがIPBにとって最適な学生であると候補推薦してもらい、選考を経て与えられるわけです。

ストローで作る造花

スマランで行うPPKIJの活動の中に、手工芸活動があります。御覧のように、ストローで造花を作っています。

これらは普段私達が飲料用に使っているのですが、手工芸品用として利用できるよう手を加えています。ストローは手工芸用品屋やカフェやレストランで手に入れることができます。

使用済みのものなので、作る前にきれいにしなければいけません。バラ、向日葵、ジャスミンそのほか様々な果樹類の花をつくります。

それぞれの花を作るには特有の難しさがあるので、様々なレベルのスキルを求められます。

例えば、多分向日葵作るのが一番難しいと思います。この花の場合、ひとつ作るためにも他よりもかなり多くのストローを使わなければならないからです。でも、私たちはこれから学習し、もっといいものを作っていくたいと思っています。

これまでのところ、私たちの作品はスマランの事務室を飾るためにつくっているのですが、これからはそれらを売ってちょっとしたお小遣いになればよいと思っています。



スマランでのとっておきの料理

ルンピア(Lumpia)はスマランのとっておき料理のひとつ。“rebung”という若竹の芽が材料になっています。どうぞ想像してください！竹からおいしくて栄養のある料理が作れるのですから。

この料理には“rebung”からとれるプロテイン、鶏肉、えび、そして卵が含まれています。小麦からできている外側の皮には炭水化物が豊富に含まれています。

私たちは、これをピクルスやソースといっしょに食べます。スマランにくる観光客はみんな家族のために買う、というのも値段はとても手ごろで観光客向けのお土産や食品を売っている店で簡単に買えるからです。マタラン通り(Mataram street)にあるルンピア専門店でも手に入れることができます。スマランを訪問されるときには、試してみてくださいね！



もっと わかろう インドネシア

日本人なら知つておこう



このコーナーは、里子新聞編集顧問の小西会長が、長年インドネシアとつきあってきた中で、会員の皆様をとおして日本の人々に語りたい「もっとわかろうインドネシア」を、掲載します。

「見方が違っているのでは？」と思われた方、ぜひご意見をお寄せください」とのこと。また、このコーナーの感想もお寄せ下さい。
宛先は下記の通りです。

〒181-0005 三鷹市中原2-16-9 C.P.I. 本部

「こんにちは」新聞編集委員会

e-mailの方は : cpi_mate@muh.biglobe.ne.jp

旧日本軍と戦ったインドネシア民衆に、残る“こころの傷跡” ツグムダ(TUGU MUDA)の記念碑

中央ジャワの中心都市として、スマランには見所がたくさんある。そのなかに、旧日本軍とインドネシア独立軍の戦跡があちらこちらに見られる。弾痕の跡を残した建物も残してある。ただそれらは、自由のために戦った若者の爱国心を忘れないためとのことだ。

中でもツグムダ(Tugu muda) (写真)は是非訪れて頂きたい興味深い場所である。

1945年(昭和20年)10月14日から19日に起こった”5日間戦争”で命を失った英雄たちを国民の記憶に残すために1950年に建造され1953年5月20日初代スカルノ大統領によって落成された。その形は、インドネシアの自由を守り続けるために戦う永遠の魂を映し出す巨大な松明のようだと言われている。寺院を建造するために使う石を使って作られ、基底部分には戦いの歴史が刻まれた5つのレリーフが描かれている。周辺にはプールや緑に囲まれた公園が市民の憩いの場となっている。

第二次世界大戦で、日本軍はインドネシアを独立させる手助けをしたとの美談が残っている。また、戦後インドネシアに残って独立軍とともに過ごした残留日本兵の話が強調されている。

しかし、実際はかなり違う。日本人のほとんどは、南方戦線の最前線で亡くなつた多くのインドネシア兵補の犠牲を知らない。また、一時は占領軍であった旧・日本軍の行なつた、文字にできない行為も知らずに過ごしている。インドネシア政府は戦後の日本との経済関係を考えて、それらを白紙封印した。しかし民衆の、とくに老齢者は、私たちの前では決して口に出さないが、“こころの傷跡”を未だに残している。

我々C.P.I.の教育里親活動は、そうした感情を和らげ、慈悲の心で許しに向けて戴くことにも役だっていることを、もっと日本の皆さんに知っていただきたいと思います。

